



CT 検査を受けられる方へ

・ CT 検査とは

X 線を使って体を輪切りにした画像を撮影し、体の内部を精密に検査するものです。苦痛はありませんが、検査中は息を止めていただいたり身体を動かさないなどの制約があります。

さらに詳しい体の情報を得るために、検査の時に造影剤を静脈から注射したり、腹部の検査ではコップ 2 杯程のお水を飲んでいただくことがあります。

・ 造影 CT 検査とは

調べようとする臓器や血管がよく見えるように造影剤を静脈から注射し撮影します。

造影 CT 検査はすべての患者さんに行われるのではなく、診断上どうしても必要であり、安全に行なえると判断された場合に限られます。

・ 造影剤とは

造影剤は調べる臓器や血管を白く見えるようにして体の中がよくわかるようにするためのものです。

多量のヨードが含まれているため、ヨード造影剤といわれます。一度に 100cc 程の造影剤を腕の静脈から注射しますが、その方法や量は患者さんによって異なります。

腎臓の機能が正常であれば、造影剤は注射後約 6 時間で尿として排泄されます。

最近の造影剤は以前のものと比べて副作用が少なくなっていますが、それでも 3~5%の頻度で副作用が発生するとされています。

代表的な副作用として検査中や直後にくしゃみ、悪心、じんま疹、かゆみ等がでることがあります。

これを即時型の副作用といいます。きわめてまれに、血圧が低下したり、声がしゃがれたり、冷汗がでたり、胸が苦しくなることがあります。そのような場合は主治医や検査担当医が素早く対処します。なお、造影剤を注射すると体がポカポカと温かくなることがありますが、これは心配ありません。

約 17 万人を対象とした大規模な造影剤の副作用調査によると、そのうちの 70 人に呼吸困難、意識消失、急激な血圧低下、心停止等の治療を必要とする重篤な副作用が発生しています。

遅発性副作用といって造影剤の注射後数時間~数日後に体がだるく感じたり、頭痛がしたり、じんま疹が出るがあります。そのような場合は病院に連絡するか、医師・看護師に申し出て下さい。

実際の検査中に造影剤の注射によって気分が悪くなったり、何か変わったことを感じましたら、いつでも声に出して教えて下さい。マイクを通じて声は常に操作室のスタッフに届いております。

・ 造影剤が使用できない場合等について

特定の病気や体質で造影剤により副作用が生じやすいことや病気が悪化したりすることがあります。その危険度によって、下記の3つの場合があります。

1. 造影剤を使用してはならない場合

- 1) ヨード造影剤により副作用を生じたことのある方
- 2) ヨードに過敏症のある方
- 3) 重い甲状腺機能障害のある方
- 4) 妊娠中の方

これらの場合にはヨード造影剤を使用できません。

2. 原則として造影剤を使用しない場合

気管支喘息、重い心障害、重い肝障害、重い腎障害、多発性骨髄腫、褐色細胞腫、急性膵炎、マクログロブリン血症、テタニー等のある方

これらの病気では造影剤による副作用が通常より高率に発生します。また、まれに腎機能障害や高血圧、病気の悪化を生ずることがあります。造影 CT で得られる有益な情報と造影剤による副作用の危険性を考慮し、十分な説明と同意の上で造影検査の可否を決定します。

3. 慎重に造影剤を使用する場合

花粉症や薬剤・食物アレルギーのある方では副作用の頻度が高いことが知られています。

・ 造影 CT 検査前のお願い（注意事項）

造影 CT 検査をできるだけ安全に実施するために予約時及び検査直前に問診を実施しております。わかる範囲でお答え下さい。（なお、造影検査はいつでも中止できます。）

水分の制限はありません。水、お茶、ジュースなどを控える必要はありません。

検査直前の食事を控えて下さい

午前の検査では朝食を食べないで下さい。午後の検査では昼食を食べないで下さい。

腹部 CT 検査では造影を行わない場合でも検査直前の食事は食べないで下さい。

服用中のお薬は医師の指示がない限り、通常通り服用して下さい。

造影剤は母乳へも移行します。検査後数日間は授乳を控えて下さい。

・ 造影 CT 検査後のお願い

特に飲水制限がない方は造影剤を早く身体から出すために検査後にお水やお茶を飲むなどして水分を十分に補給して下さい。

その他、検査後に渡される注意事項をお守り下さい。また、疑問のある方は主治医や検査担当医、看護師に遠慮なく申し出て下さい。

予約の変更は3日位前迄にお願いします。それ以降は業務に支障を来たしますので、なるべく御遠慮下さい。

CT検査について何か疑問な点がありましたら、検査担当者又は下記の連絡先へお尋ね下さい。